

支援計画概要



STEP 1

現状把握・支援内容の設定

ゲノム編集魚の保護だけでなく
事業全体視点で優位性担保を目指す

現状の課題・要望

- ① 将来市場が拡大した場合の優位性担保が必要。
- ② ゲノム編集魚についての知財の権利化による模倣への対抗方法の検討。

ゲノム編集技術による魚類の新品種開発という強みを活かし、これまでに「22世紀鯛」「22世紀ふぐ」など付加価値の高い新品種を開発しているが、将来新規参入企業が増えた場合でもビジネスの優位性を保てるようにしておくことが必要。また、その優位性を保つためにどのような知財の権利化などを検討して行けばよいかを知りたい。

支援内容

優位性担保が確実なものとなるよう、ゲノム編集魚の開発技術の権利化だけでなく、技術ノウハウ等の価値ある情報を認識・活用できる仕組みの構築が重要。

価値ある情報活用の提案

今後の取り組みに向けたディスカッション

STEP 2

価値ある情報活用の提案

優位性担保のためにどのような情報が価値ある情報かの洗い出し

1 関係性を把握・整理し優位性の本質を見出す

自社が認識する技術力だけで有効に優位性担保ができると考えがちだが、提携先の協会社との関係性も価値ある情報との視点から見直して活用することにより強固な優位性が保てる。

2 知財情報を活用した分析・検討

認識した価値ある情報が客観的に優位性担保のための要因であるかどうかは、自社の主観的な認識ではなく、特許文献等の知財情報の活用により競合他社と比較した判断資料を得て客観化する必要がある。また、この過程で他社の権利侵害の可能性等も検討できる。

3 協力企業との提携方法の検討及び契約

客観化された価値ある情報に基づいて、具体的にどのように提携し、またどのように契約すれば優位性担保に繋がるかを検討できる。

4 付加価値によるブランド力の向上

特定の顧客にとって付加価値のある商品・サービスの提供により一定のファン層を醸成することで、新規参入企業に対して優位性が保てる。

どのような情報が重要であることを認識・理解するために、 繰り返しディスカッションを行い優位性の本質を探る。

知的財産権取得と共に
価値ある情報の活用による新たな
ビジネスモデルの方向性が
見出せた。

事業面から見た
価値ある情報の選別・
活用手法の確立

社員の
モチベーション向上も考慮した
情報管理体制の整備

自社の技術の知的財産権による保護だけではなく、事業全体の視点から価値ある情報とは何かを具体的に分析・検討したことによって、優位性を担保するための価値ある情報の重要性をより認識・理解でき、新たなビジネスモデルを構築するための土台になる知見が得られた。

新しいビジネスモデル構築のために、
価値ある情報活用手法の確立と情報管理体制の
充実に向けて動く。

特許文献等の知財情報を活用して選別した価値ある情報の活用とその価値ある情報の管理体制を再編して、新たなビジネスモデル構築を実現することにより、将来的な新規参入企業に対して優位性担保を図る。



事業全体をまず見渡すことが大事
という気づきがありました。

リージョナルフィッシュ株式会社
塩見 泰央氏

昨年「22世紀鯛」「22世紀ふぐ」をローンチし、今年～来年にかけて事業をさらに加速させるフェーズに入っています。弊社は主に技術開発に注力しており、そこが強みでもあるため、今まで知財に関してはその部分の権利化を強く意識して考えていましたが、本支援の中でお話を伺うと、ひとつひとつの技術にとらわれずに「事業の全体などを見て、どこを知財で保護していくのか？」という感覚や視点」が大事であるという気づきを得ました。また、社内の変化も今支援を通して見ることができました。この機会にビジネスサイドだけでなく、日々スピード感を持って研究に取り組んでいるスタッフとも議論を行い、開発状況や実際どういう風に研究しているのか

聞いてみたところ、彼らも力を込めて開発した技術を今後どうしっかりと守っていくかという点に思いや関心があることが感じられました。研究開発スタッフにも知財に対する意識が浸透したのではないかと感じております。また、先生方からのアドバイスで、特許文献から、現状の分野におけるトレンドや技術の水準がわかるとお聞きしました。今後、弁理士の先生を招いて研究開発スタッフ向けの講義も実施できればと考えております。今後は事業全体をまず見渡し、その上で秘密管理の体制づくりに取り組みつつ、知財化できるもの・すべきものはすぐに取り組みたいと思います。

担当弁理士



赤間 賢一郎



垣木 晴彦



松本 浩一

最近では技術革新が急速に進むことから、技術力の優位性だけではすぐに追いつかれてしまい、新規参入企業に対抗できなくなる恐れがあります。現在の自社の技術に関して事業との関係で特許権等の知的財産権を取得することも大切ですが、事業全体を見渡し将来的な優位性担保に貢献し得る技術・ノウハウ等の価値ある情報も客観的に認識・理解した上でこれらを活用して強固な優位性を持つビジネスモデルを構築するために、この価値ある情報の活用・漏洩防止に資する情報管理体制の構築をご検討ください。



INPIT-KANSAI
知財戦略エキスパート
濱野 廣明

時代に先駆けてチャレンジするベンチャー企業は、最初に獲得したアドバンテージを維持し、先行者利益を十分に受けたいと思っているのではないのでしょうか。獲得したノウハウや蓄積してきた情報の価値は計り知れません。それらを守る営業秘密管理の取組みは、ビジネスの成功に繋がっています。ノウハウ、情報の洗い出しから始めてどう守るのか、そこが大事なポイントです。